

3-16. 徳島県那賀町（徳島県那賀郡那賀町）

(1) 地域の概要

【人口】

総人口：9,410人（男性：4,459人・女性：4,951人）

世帯数：4,044世帯 ※2014年12月末

【地勢】【面積】

平成17年3月1日、鷲敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村の丹生谷5町村が合併して誕生した那賀町は、徳島県の南東部に位置し、東は阿南市、西は高知県、南は海部郡、北は勝浦郡、神山町、美馬市、三好市に隣接しています。町域面積は694.86km²であり、県の総面積の約17%を占めています。

地域の北西部には四国山地、南部には海部山脈等を配しており、標高1,000m以上の山々に囲まれ、可住地面積はわずかに5.0%の中山間地域です。地域内には那賀川及び坂州木頭川が流れ、両河川は上那賀地区内で合流して地域のほぼ中央を西から東に貫流し、太平洋に注いでいます。

【気候、自然】

那賀町の気候は、太平洋気候帯に属し、地形的特性から、日本でも有数の多雨地域です。山間地であるため、沿岸部に比べると気温の変動が大きく、複雑な気象特性を持っています。また、年間を通じて昼夜の寒暖差が大きく、内陸性の特を示しています。

春は、周期的に天気が変わり、低気圧が近くを通過すると大雨や強風が吹きます。上空に冬の寒気が戻ってくると、雷やひょうが発生しやすく、災害が発生することもあります。

夏は、熱帯低気圧や台風の影響が大きく、梅雨の長雨、早い時期の台風の影響による強風と大雨、発達した積乱雲による集中豪雨、雷、ひょう等風水害の発生しやすい状況になります。

秋は、台風の上陸と秋の長雨の影響から、風水害の発生が非常に多く、特に近年は台風が連続して上陸する等、大雨による災害の発生が増加傾向にあります。

冬は、山間地のため徳島県内でも積雪が多く、雪への備えが必要になります。気温の低下から、水道管の凍結や路面の凍結等が発生し、生活が乱れることもあります。

また、降水量は、剣山山脈の南側に位置するため、本町は県内で最も降水量の多い地域となっています。

【歴史】

丹生谷地方（那賀町）は、縄文時代の遺跡が発掘されるなど、古くから人が住

んでいた地域です。古代では丹生（水銀）の生産を行っていた記録があり、近代～現在までは主に林業が主産業で栄えていました。紙漉き場や農村舞台、古代織である太布織などの伝統的な文化も数多く残されています。

那賀町は、平成 17 年 3 月 1 日に旧丹生谷 5 町村（鷺敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村）が合併して誕生しました。

【観光】

町内の目立った観光名所は四国お遍路・第 21 番札所 太龍寺への参拝用「太龍寺ロープウェイ」（利用者年間約 13 万人）しか無く、しかも利用者は隣接する阿南市にある第 22 番札所平等寺に移動してしまいます。

今後は通過型観光から、那賀町の自然環境・歴史・文化等の地域資源を活用した滞在型・体験型観光へ変化させることが大きな地域課題になっています。

【地域資源の概要】

那賀町は良い意味でも悪い意味でも「山間部の田舎」であり、豊かな自然・棚田や山間地の農村風景、自然と向き合う生活文化が残っています。農産物では、木頭地区で栽培されている「木頭柚子」や相生地区で栽培・特殊な技法で生産されている「相生晩茶」が有名であり、かつての主産業であった森林資源にも恵まれています。また、町内には古くから残る農村舞台複数個所では、人形浄瑠璃の公演が行われおり、その他にも紙漉き場や古代織である太布織の保存会活動、吹き筒花火の保存会活動など、歴史・文化面でも地域資源が数多く残されています。

(2) アドバイザー派遣申請の背景

1) 背景

町村合併前の、鷺敷町・相生町・上那賀町・木沢村・木頭村の丹生谷（にゅうだに）5 町村は、地理的・歴史的、また産業・文化面においても古くからの結びつきがあり、行政運営においても一部事務組合で丹生谷地域全体の課題やまちづくりに共に取り組んできました。一方、過疎化や少子高齢化が進み、さらには地方分権の推進や地方交付税の削減による財政困難等、多種多様な行政課題に対応するため、平成 17 年 3 月 1 日、5 町村の合併により「那賀町」が誕生しました。合併当時 11,893 人いた人口も現在では約 9,500 人まで減少し、20 年後には人口が約半分になると試算されています。このままでは、限界集落が増え続け、山林や田畑は荒廃し、ふるさとの風景が消えてしまいます。

那賀町内には、目立った観光名所は四国お遍路・第 21 番札所 太龍寺への参拝用「太龍寺ロープウェイ」（利用者年間約 10 万人）しか無く、しかも利用者は隣接する阿南市にある第 22 番札所平等寺に移動してしまいます。しかし、那賀町は良い意味でも悪い意味でも「山間部の田舎」であり、豊かな自然・棚田や山間地の農村風

景、自然と向き合う生活文化が残っています。また、町内には古くから残る農村舞台も複数箇所があり、人形浄瑠璃の公演が行われるなど、歴史・文化面でも地域資源が数多く残されています。

今後、通過型観光から、那賀町の自然環境・歴史・文化等の地域資源を活用した滞在型・体験型観光へ変化させ交流人口を増やし、地域に「活気」を取り戻すために、アドバイザーを派遣していただき、取組を推進します。

2) これまでの取組

那賀町は昨年度もアドバイザー派遣を受けて、今年度・4月末に昨年度に開催しました研修会参加者が主体となった「なかなかツーリズム研修会」というグループを発足しました。その後、月に1～2回程度、研究会のメンバーで集まり、那賀町内にある地域資源の整理や発掘作業、講師を招いての研修会や体験型ツーリズムで先行している他地域の取組を視察しに行く、等の活動を行っています。

(3) アドバイザー派遣の概要

日	時	平成 27 年 2 月 12 日 (木) ～14 日 (土)
場	所	徳島県那賀郡那賀町 相生地区
ア	ド	バ
イ	ザ	ー
参	加	者
		公益財団法人日本交通公社 観光調査部長 寺崎 竜雄 氏
参	加	者
		那賀町役場職員、那賀町議会議員、那賀町観光協会、地域住民 合計 23 名
スケジュール・方法		<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察：木沢地区・上那賀地区 ・現在取り組んでいるエコツアーについて説明し助言を頂く <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察：木頭地区 ・特産品の柚子や地域の伝統・生活文化を用いた体験イベント等について、助言を頂く ・研修会 <p>【3日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視察：相生地区、鷺敷地区 ・エコツーリズムに生かせる地域資源、自然環境等について、取組を進展させるためには、何が必要かアドバイス頂く

(4) アドバイスの内容

- ・那賀町内には様々な地域資源があるので、情報発信をしっかりと行うことが大切である。
特に農村舞台等の歴史・文化的なものについては、広く浅くより、その分野に興味を持っている層に絞った形の情報発信をするべき。
- ・着地型観光を事業化するためには、地域振興のための活動を事業として実施することが大事であり、事業としての成功は参加者満足度による。まずは1年間のスケジュールを組んでみて、対象を町内住民等の近いところから初めて、参加してもらい検証を行うと良い。
- ・地域を訪れる人に地域の魅力を体験してもらうには「地域に住んでいる人」との繋ぎ役である「地域を案内するガイド」という存在が重要である。
- ・地域資源を活かした観光商品を地域で開発しても、多くの地域は、どの様に販売するルートを築くのかという課題を抱えている。公益財団法人日本交通公社「観光プログラムの流通・販売に関するアンケート調査」では、観光プログラムの販売ルートの約75%が参加者に直接販売しており、販売や受付・問合せ・情報発信を一括で行えるワンストップの窓口組織を立ち上げることが重要である。

(5) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

地域を訪れる人に地域の魅力を体験し感じてもらうためには「地域を案内するガイド」という存在が大切であることの認識できました。

2) 今後期待される効果

今回の研修会では、地域内でエコツーリズム・着地型観光に取り組むには「人」がとても大切な要素であることを参加者が理解できたので、今後は、さらに主体的に取組に参加することが期待されます。

3) 今後の取組

那賀町での取組を進めていくために、地域内コーディネーターや受付・問合せ・情報発信を一括で行えるワンストップの窓口組織機能を持つ推進組織を出来るだけ早い時期に設立します。

(6) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事項

全国各地の自然ガイドの事例や東日本大震災被災地における復興を目的としたツアーリズムへの住民参加の事例から、関係者のみで何とか取組をしようとせず地域の方たちに地域の案内人になってもらったりといった様に上手く連携して地域を取り込みながら取組を進めることが成功の要素になる。

2) その他感想

前年度のアドバイザー派遣事業が地域住民の方々にとても好評であったため、今年度も熱心な地域住民の方々が参加をされ、また新たに参加された方もおり、地域内でのエコツアーリズム・着地型観光の取組に対する理解が広がっているのを実感できました。

今後、「地域で何をすれば良いのか？」が具体的に共有できたことから、次の段階に進む準備が整ったように思います。

【記録写真】



四季美谷温泉・平井支配人より木沢地区の取



相生地区・研修会の様子①



若手林業家集団「山武者」との交流会



相生地区・研修会の様子②

(7) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

公益財団法人日本交通公社 観光調査部長 寺崎 竜雄 氏

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

- ・都市農山村交流の進展、過疎対策、Jターン者の増大という地域課題の中において、地域固有の資源を活用した体験観光のメニューづくりに取り組んでいる。地元行政所属の地域コーディネーターが存在し、彼を中心に地域の魅力探し、人的ネットワークの拡充に取り組んでいる。
- ・エコツーリズムへの取組は、まだ初期段階で、協働の体制や、地域としての方向性は模索途中。

②課題

- ・地元行政のエコツーリズムへの関心が薄く、前述のコーディネーターを支援する枠組みが弱い。このコーディネーターの地域内の協働を促進する能力は高く、今後のエコツーリズムの推進に欠かせない人物であることは明らか。しかしながら、行政職員としての任期がせまっております、彼をこの先、地域の中でどのように位置づけていくかが極めて重要な課題。
- ・魅力的な地域素材が地域内に点在している。エコツアー商品としてこれらをどのようにつないでいくか、町域が広大であることもあり、難しい課題。
- ・市場と地域をつなぐ販売力が乏しい。コーディネーターとの話の中で、市場側の旅行会社に頼ろうという意識が比較的強いこと気がかり。まずは、地域内でのとりまとめと、販売の仕組みを整えることが重要。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

①魅力を感じた地域資源

他地域との比較において当地域に特徴的であり、エコツーリズムの素材としてもっとも誘客力が大きいと考えられるものは「農村舞台と人形浄瑠璃」である。町域内に点在するこの素材は、地域全体のイメージのシンボルにもなりうるし、プロモート次第では、広域からの誘客力ももちうる。

加えて、四季美谷温泉で味わうジビエ料理も、競争力が高い素材。ここを拠点とした自然体験との組み合わせた滞在プログラムの作り込みに期待。

この他にも、「田舎暮らし」のための素材や環境、木頭ゆずなどを活用したグリーンツーリズム的な体験や、林業をからめたアクティビティ、など体験観光の素材には事欠かない。

②上記地域資源に魅力を感じた理由

そもそも、エコツーリズムで活用できそうな素材は豊富なので、これをどのように味付け、盛り合わせ、メニューに掲載するか次第。とはいうものの、他地域

にない当地ならではの歴史や生活文化に培われたものという観点から、先の2つの素材が、他より群を抜いている。

3) アドバイス（講義等）の概要

総合的な話の中で、適宜事例を紹介したが、文脈の中でその取組の一部を紹介したに過ぎないので、あえて記載すべき事例はない。

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

- ①全体構想への取組状況について
取組状況はまだスタート前。
- ②全体構想への意向について
今後の取組への意向は感じられなかった。
- ③全体構想認定に向けて、今後必要なこと
町内関係者への理解促進。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

- ・町域が広く、資源が点在する。これら資源の多くは都市部生活者から見ると、魅力的。先述のとおり、これらをどのように仕込んでいくかが、コーディネーターの腕の見せ所だろう。
- ・町域全体をいちどきにまとめることにはとらわれず、各地区単位で協働者を募り、小さなプログラム作りにあたってもらおう。ときどき、町民を対象としてこの小さなプログラムへのモニター参加を促し、プログラムの商品力の向上と、町民への理解促進をはかるとよい。
- ・四季美谷温泉を拠点としたプログラムは、さらに磨きをかけて、商品力の向上を図り、価格も検討する。ここが町内の最奥部でもあるから、ここを訪れる来訪者が増大することによって、地域全体の賑わい創出にも貢献するはず。それを刈り入れるためにも、途中の沿道の土産店などの工夫は必要。
- ・地区単位に造成したプログラムの販売は、地区単位でも行うが、これらを統合した町全体の販売窓口、外部関係者との結節点が集約された機能としてあることが望ましい。この販売力をテコにして、協働の求心力とすると良い。